

総合工学委員会原子力安全に関する分科会（第26期・第8回）
議事要旨

1. 日 時 令和8年7月30日（木）11：00～13：00

2. 会 場 日本学術会議6-C会議室（1）及び遠隔会議（Zoom）

3. 出席者（敬称略）

越塚誠一、森口祐一、赤羽恵一、浅間一、岩城智香子、大倉典子、小野恭子、
関村直人、筑本知子、野口和彦

4. 議事

（1）前回議事要旨の確認及び前回分科会以降の主な動向について

岩城幹事より資料1の第7回分科会議事要旨について説明があり、承認された。

（2）原子力総合シンポジウム2026について

越塚副委員長より資料3公開シンポジウム「原子力総合シンポジウム2026」（案）
の説明があった。

- ・テーマを「原子力安全に関する規制制度と原子力政策」あるいは「原子力安全の基盤と課題」とする案が出された。
- ・招待講演候補者案が共有された。
- ・日程について、講演者が多くなることが予想されるため終日確保する。候補日1月18日（月）あるいは1月25日（月）が提案された。次期の開催となるので総合工学委員会との共催を希望する。場所は学術会議講堂の予定。
- ・テーマのスコープについて、明確にすべきという意見が出された。不正（改竄等）の起こる体制を深堀する方向でよいのか（規制制度との関係を整理する必要があるのではないか）、講演者のダイバーシティを確保すべき、という意見が出た。原子力分野以外の専門家にも入っていただき、広いスコープで議論することが確認された。規制適合性を重視しがちな文化等の倫理的側面、外部からの問いかけに答えるコミュニケーションの側面、品質マネジメントシステムの限界など、について議論できればという意見が出た。
- ・シンポジウム開催について承認された。テーマおよび開催趣旨のアップデート及び内容の詳細については越塚委員を中心に引き続き検討する。

（3）見解「ALPS処理水の海洋放出の影響評価と課題」（案）について

森口委員より資料2-1、2-2、2-3について説明があった。

- ・資料2-2で見解案の審議経緯が共有された。見解案（資料2-1）は査読対応中であ

り、記載内容の確定については委員長一任とすることが確認された。

- ・ガバナンス関連記載事項（本文中見解4）について委員から複数の意見があった。本稿では主に ALPS 処理水にかかる点を指摘しつつ、廃炉にかかる点について議論を拡張する、という流れとした。
- ・資料 2-3 記録「福島第一原発事故に関わる環境モニタリングデータ・測定試料に関するアンケート調査」の結果について」の経緯等について説明があった。

（4）次期に向けての活動の課題（案）について

関村委員長より、資料4 次期に向けての活動の課題（案）の説明があった。

- ・6つの論点が提示された。「原子力分野で求められる人材像の再定義」について、重要な論点で、人材育成という語を明確に出すのが良いという意見があった。AI の利用が原子力安全に及ぼす影響を議論しては、という意見があった。原子力固有の課題と共通の課題を分けて議論しては、という意見があった。
- ・次期は法人化後となるため、これまでの継続で進まない可能性があることに注意。
- ・委員の意見を受けて、越塚副委員長および関村委員長がアップデートすることが承認された。

（5）法人化に向けた検討状況について

森口委員より、資料5 法人化に向けた検討状況（2026年4月総会資料6-1）について説明があった。会則変更等、変更事項が種々あるものの、期初（R8年10月）から活動できるよう執行部が準備していることが報告された。来週の総会以降にアップデートされた情報が出る予定。

（6）その他

特になし

5. 配布資料

資料0 原子力安全に関する分科会議事次第（第26期・第8回）

資料1 原子力安全に関する分科会議事要旨（第26期・第7回）

資料2-1 見解案「ALPS 処理水の海洋放出の影響評価と課題」第三部査読クリア版

資料2-2 ALPS 処理水見解案の審議・査読の経緯

資料2-3 記録「福島第一原発事故に関わる環境モニタリングデータ・測定試料に関するアンケート調査」の結果について」（公開版）

資料3 公開シンポジウム「原子力総合シンポジウム2026」（案）

資料4 次期に向けての活動の課題（案）

資料5 法人化に向けた検討状況（2026年4月総会資料6-1）

以上